

一月二十八日(火)

平成二十六年 金沢学院大学 入学試験問題 (一般入試A)

国語

(注意事項)

国語と記入・マークした解答用紙に解答しなさい。

(解答上の注意)

解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、10と表示のある問いに対して④と解答する時は、下記の(例)のように解答番号10の解答欄の④にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。

公共的な乗り物にシルバーシートなるものが出現してから、もうずいぶんときが経つが、私は、これが出現したときにかなり違和感を抱いた。おそらく少なからぬ人が疑問を感じたのではないかと思う。当時の投書などをあさってみれば、賛否両論でにぎわっていたはずである。しかし、今では^①キセイ事実に慣れてしまつて、ほとんどだれもこのシステムに異を^②私^③の違和感とはイゼンとしておさまらない。

現在は「優先席」と名指しされて、老人だけでなく、障害者、妊婦、小さい子ども連れの乗客などの絵記号シールが貼つてあるのを見かける。また、「お年寄り、体のご不自由な方、小さいお子さんをお連れの方には席を譲りましょう」といった放送が繰り返し流れてくることもある。

この場合、問いたいのは、これらの「弱者」をいたわる心情そのものは是非ではない。こういう枠組みをわざわざルールのように設定して、あなた方一般乗客は、どんな場合にも絵記号シールに該当する人を優先する心がけを持たなくてはいけないのですよと^④B^⑤しているような、押し付けがましい姿勢についてである。

私たちは、ごく普通の人間性を備えていれば、たまたま街や乗り物のなかで困っている人に出会ったときに、思わず援助の手を差し伸べるものだ。

もちろんその意志の発動にはそれぞれに限定条件がある。その種の人がいることに気づいたとき、私たちのなかにはいろいろな心理が働く。たとえば、自分からは距離が遠すぎるから、近くの人がやってくれないだろうとか、わざわざ人前で「善行」を示すのはスタンドプレイのように見えて気恥ずかしいとか、こっちは今仕事でたくさんだから他人になど構ってられないとか、この人は席を譲るほどこいたわられるべき人だろうか、かえってプライドを傷つけられるのではあるまいか、など。

また、人間性といってもいろいろである。まわりによく気配りしている人もいれば、自己中心的であまりまわりのことなど考えていない人、親切の押し売りをしたがる人など。

これらは、ときに応じて複合的に作用して、席を譲る、譲らないの選択を条件づける。^⑥しかし、赤の他人が肩を触れ合う距離で接触しなくてはならない電車のなかのような空間では、こういう限定条件は、それが他に迷惑を及ぼすものでない限り、そのまま認められるべきなのである。「みんな、弱い人には優しい同情心を持つように常に心がけましょう」などという思想は、日常の個々の具体的な場面では、^⑦ドウキの一つとしての意味しか持たず、またそれ以上の強制的な意味を持つべきではない。

よく、「今の若い者は眼の前に年寄りがいるのに、席も譲らない」などと、人心の荒廃ぶりを^⑧ナゲク向きがある。（a）都会では、個人主義的傾向が進んで、眼の前に何があつてもなるべくかかわりたくないという心理が、若者だけでなく、私たち一般に浸透している側面はある。それには、見ず知らずの他人に対する警戒心も手伝わっているだろう。

（b）、不届き者はいつの時代にもいる。また一方には、「茶髪、ピアスのおにいちゃんが、とても優しく親切にしてくれた。今の若者、捨てたもんじゃな」といった経験談のたぐいもたくさんある。そういうわけで私自身は、明確な「人心の荒廃」の^⑨チヨウコウなどあまり信じないのである。逆にかつての時代が、そんなに良識あふれた時代だったとも思えないからだ。

人間のこういう部分というのは、あまり変わらないと思う。優しい人、冷たい人、積極的な人、消極的な人、いろいろいるが、眼の前の事態が深刻であれば、それに応じて援助の行動はそれなりにあらわれるものだ。重大な交通事故が起きたときや阪神・淡路大震災のときの人々の対応などを見ると、そのことがよくわかる。

⁽⁷⁾シルバースーツ、優先席のようなことさらな区画づけは、かえって、自然な接触による自然な同情心の発露を抑制する効果を生む可能性が高い。人々は、そういう区画づけの前に立たされると、概して「そこに座りたい」という意に反して、仕方なく規則に従う」という心理的な反応しか示さない。

他の席がふさがっていて、立っている人がけっこういるのに、優先席だけは空いているという光景にしばしば接することがある。これは、優先席に座ることで、その該当者が乗り込んできたときに規則に従って立ち退かなくてはならない心理的な負担感を、あらかじめ避けようとするのである。多くの人が、そこに空席などはないものと見なすのだ。そのことによって、かえって人は、「弱者」との個別の接触を避けることになり、そういう問題を自分で考えたり自らの意志で行動したりするきっかけを失うことになる。

私自身は、「優先席」だろうとそうでなかつたら、席が空いていればかまわずに座ることになっている。「優先席」に座っていて、該当者が来たら、よほどのことがない限り譲るだろう。その心づもりは、普通の席に座っている場合も基本的には同じである。(c)これは正直なところ、すでにそういう区別がなされているという事態に対するかなり意識的な対応であって、「優先席」に座っている場合に、その「規則」的なものから拘束されている窮屈な感覚をまったく抱かないと言ったら嘘になる。

(d)「優先席」の存在そのものが、自然な同情や親切心の発露を封じ込め、かわりに、気後れやこわばりの意識を誘発しているのだ。この種のものはない方がいいのである。(e)、あってもなくても同じであって、そういう配慮のためにお金や神経を費やすのは無駄なことである。こういう「装置」を外側にセットしておくことで、「弱者」へのいたわりの心が成長するような B 的効果期待できるなどと企画者が考えているとしたら、それは、大きな間違いだ。「お年寄り、体のご不自由な方、小さいお子さんをお連れの方には席を譲りましょう」の放送のたぐいに至っては、ただうるさいだけで、その説教の無意味さにはうんざりする。たぶんだれもまともには聞いていないだろう。

【小浜逸郎『弱者』とはだれか』(PHP研究所)による】

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5。

① キセ|イ

1

- ① セ|イミツ検査に回される。
 ② 過去をナイセ|イする。
 ③ セ|イジン式を祝う。
 ④ ニホンセ|イのバッグを買う。
 ⑤ とことんセ|イイを尽くす。

② イ|ゼン

2

- ① 人生は一期イチ|エだ。
 ② 仏門にキエ|する。
 ③ フタエ|まぶたになる。
 ④ 三人寄れば文殊のチエ|。
 ⑤ 赤染エ|モンの歌風。

③ ドウキ|

3

- ① キカ|イの操作は苦手だ。
 ② キカ|イな現象が次々に起こる。
 ③ キカ|イ体操の強豪校に入学する。
 ④ キカ|イの風雲児と呼ばれた男。
 ⑤ キカ|イに入会いたしました。

④ ナ|ゲク

4

- ① 作品の世界にタン|デキする。
 ② カン|タンな手続きで済む。
 ③ タン|モノの巻き方を教わる。
 ④ 日頃のタン|レンが重要だ。
 ⑤ 思わずタン|ソクをもらす。

⑤ チョウ|ウコウ

5

- ① 難問にチョウ|ウセンする。
 ② ビル最上階からのチョウ|ウボウ。
 ③ 国の借金が一千チョウ|ウエンを突破した。
 ④ チョウ|ウヤク力を身につける。
 ⑤ おチョウ|ウシの注ぎ口。

問2 空欄（ a ）（ e ）に入れる語として最も適当なものを、次から一つずつ選べ。解答番号は a 8、b 7、

c 8、d 9、e 10。

- ① ただし
 ② ところ
 ③ つまり
 ④ そして
 ⑤ あるいは
 ⑥ かし
 ⑦ もちろん
 ⑧ たしかに

問3 空欄 A に入れる動詞として最も適当なものを、次から一つ選べ。解答番号は 11。

- ① つぶやく
- ② 述べる
- ③ 発する
- ④ 表する
- ⑤ 唱える
- ⑥ 吐く

問4 本文中の二箇所の空欄 B には同じ語が入る。最も適当なものを、次から一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 推奨
- ② 命令
- ③ 宣伝
- ④ 啓蒙
- ⑤ 暗示
- ⑥ 強迫

問5 筆者がシルバーシートについて、傍線部ア「私は、これが出現したときにより違和感を抱いた」、そしていまだに違和感がおさまっていないのはなぜか。次から最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 多くの人はシルバーシートの存在に慣れてしまったが、自分は今後もその存在を認めるつもりはないから。
- ② シルバーシートの設置については賛否両論があったのに、両意見を吟味しないで実施されてしまったから。
- ③ 絵記号シートだけでなく車内放送も繰り返し流されるのが騒々しく、またうっとうしくて仕方がないから。
- ④ いたわりの気持ちから生じる自然な行動を、交通機関がルールとして強要するのはおかしいと思ったから。
- ⑤ どんな状況にあっても絵記号シートの該当者を優先する心がけを持つべきである、とは思っていないから。
- ⑥ 「弱者」をいたわる心情を逆なでする方法で、交通機関が客にルールを押しつけてくるようになったから。

問6 傍線部イ「しかし、赤の他人が肩を触れ合う距離で接触しなくてはならない電車のなかのような空間では、こういう限定条件は、それが他に迷惑を及ぼすものでない限り、そのまま認められるべきなのである」という筆者の考えと一致するものには①、一致しないものには②をマークせよ。解答番号は 14 ～ 19。

- ① たとえ混み合った車内に困っている人がいても、席を譲りたくないと思うなら無理に席を譲らなくてよい。
- ② たとえ混み合った車内に困っている人がいても、それが周囲の迷惑になるようなら席を譲ってはならない。
- ③ たとえ混み合った車内に困っている人がいても、周囲に偽善者扱いされるのが嫌なら席を譲る必要はない。
- ④ もし混み合った車内に困っている人がいたら、あらゆる手段を使ってその人に席を譲らなければならぬ。
- ⑤ もし混み合った車内に困っている人がいたら、自分の周囲の事情が許すのであれば、席を譲るべきである。
- ⑥ もし混み合った車内に困っている人がいたら、席を譲れる条件が揃っているならば、譲ってあげればよい。

- 19
- 18
- 17
- 16
- 15
- 14

問7 傍線部(ウ)「シルバーシート、優先席のようなことさらな区画づけは、かえって、自然な接触による自然な同情心の発露を抑制する効果を生む可能性の方が高い」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを次から一つ選べ。解答番号は 20。

- ① 「優先席」に「該当者」でない者が座ると、規則に縛られているという窮屈な感覚を味わうことになり、とても同情などできる状況ではないから。
- ② 「優先席」さえ空けておけば、席を譲る譲らないといった面倒な問題が生じることはなく、すべての客が円満に車内を利用できるようになるから。
- ③ 「優先席」をわざわざ作らなくても、「該当者」が来れば席を譲るのは当然の行為であって、設置したこと自体が客に対して大変失礼であるから。
- ④ 「優先席」が存在することで、一般客の間に席を譲らなくてもよいという安心感が生じ、「弱者」との接し方について考えることがなくなるから。
- ⑤ 「優先席」に座っていても、「該当者」が来たら席を譲らねばならないため、年を追うごとに一般客から不満の声が上がるようになってきたから。
- ⑥ 「優先席」に近づかないことによって「該当者」と接触することがなくなり、「弱者」に対する行動について、自分で考える機会がなくなるから。

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～8)に答えよ。

孤独癖のある「私」は、僧侶である父に「金閣ほど美しいものはこの世にない」と繰り返し聞かされて育った。その父が病死し、遺言によって「私」は、福井から京都に出、金閣寺に徒弟として住み込むことになった。

私は、金閣周辺の掃除をすますと、ようやく暑熱を加えてくる朝日を避けて、裏山へ入って、夕佳亭へむかう小径を登った。①カイエン前の時間であるから、人影はどこにもなかった。多分舞鶴の航空隊のそれらしい戦闘機の一編隊が、金閣の上を可成低空で、②押しつける轟きを残して去った。

裏の山中に、藻におおわれた寂しい沼、安民沢というのがあった。池中に小鳥があり、白蛇塚と呼ばれる一基の五重のセキトウが立っていた。そのあたりの朝は、鳥のさえずりがかまびすしく、鳥の姿は見えないで、林全体が囁いていた。

池の手前には夏草の繁みがある。小径は低い柵で以て、その草地を割っている。そこに白いシャツの少年が寝ころんでいた。かたわらの低い楓の樹には、熊手が凭せてある。

少年はそこらに漂っていた夏の朝のしめやかな空気をえぐるような勢いで身を起したが、私を見て、

「何だ、君か」

と言った。

鶴川というその少年には、昨夜紹介されたばかりであった。鶴川の家は東京近郊の裕福な寺で、学資も小遣も食糧も③ジュンタクに家から送られ、ただ徒弟の修行を味わわせるために、住職のエンコで金閣寺に預けられているのであった。夏休みを帰省していたのが、④早目に昨夜帰ってきたのである。水際立った東京弁を話す鶴川は、秋からは臨済学院中学で私と同級になる筈で、その口早な快活な話しぶりが、昨夜すでに私を怖気づかせていた。

そして今も、「何だ君か」と云われると、私の口は言葉を失った。が、私の無言が、彼には一種の非難のように解されたらしかった。「いいんだよ、そんなにまじめに掃除なんかしなくても。どうせ見物が来れば汚されちゃうんだし、それに見物の数も少ないんだから」私は一寸笑った。こうして私の無意識に洩らす仕様なない笑いが、或る人には親しみの種子になるらしい。私はそんな風に、いつも自分が人に与える印象の細目に互って、責任を持つことができないのである。

私は柵をまたいで、鶴川の傍らに腰を下ろした。また寝ころんだ鶴川の頭へまわした腕は、外側が可成日に焦けているのに、内側は静脈が透けて見えるほどに白かった。そこに朝日の木洩れ陽が、草の薄青い影を散らしていた。直感で、私には、この少年はおそらく私のように金閣を愛さないだろうということがわかった。私はいつか金閣への偏執を、ひとえに自分の醜さのせいにしていたからである。

「お父さんが亡くなったんだってねえ」

「うん」

鶴川は素速く瞳をめぐらして、少年らしい推理に熱中していることを隠さずに、

「君が金閣がとても好きなのは、あれを見ると、お父さんを思い出すからなのかい？ たとえばお父さんが金閣がとても好きだった、というようなわけで」

この半分当っている推理も、私の無感動な顔つきにまるで変化を与えていないことを感じた私は、それが一寸嬉しかった。鶴川は、人間の感情を、昆虫の^⑤ヒョウホンを作ることに好きな少年がよくそうするように、自分の部屋の小綺麗な小抽斗^{こひきだし}にきちんと分類しておいて、時々それをとりだして実地^{じつち}にためしてみると謂^いった趣味があるらしかった。

「お父さんが亡くなつて、ずいぶん悲しかったろうねえ。それで、君、淋^{さび}しそうなところがあるんだねえ。ゆうべはじめて会ったときからそう思つたよ」

私は何の反撥^{はんぱつ}をも感じないで、こう云われると、自分が淋しく見えたという相手の感想から、或る安心と自由を贏^かち得て、言葉がすらりと出た。

「^④何も悲しいことあらへん」

鶴川はうるさそうなほど長い睫^{まつげ}をおしあげて、こちらを見た。

「へえ……それじゃ君は、お父さんを憎んでいたの？ 少くとも、きらいだったの？」

「おこつてなんかいいへんし、きらいでもなし……」

「へえ、それでどうして悲しくないのか？」

「何となく、やな」

「わからん」

鶴川は難問^{（カ）ほうちやく}に逢着^{すわ}して、草の上に坐り直した。

「それなら、ほかにもっと悲しいことでもあったのかな」

「何や、わからへん」

と私は言った。言つてから、私は人に疑問を起させるのがどうして好きなのかと反省した。私自身にとってはそれは疑問でも何でもない。自明の事柄である。私の感情にも、吃音^{きおん}があったのだ。私の感情はいつも間に合わない。その結果、父の死という事件と、悲しみという感情とが、別々の、孤立した、お互いに結びつかず犯し合わぬもののように思われる。一寸した時間のずれ、一寸した遅れが、いつも私の感情と事件とをばらばらな、おそろくそれが《 A 》なばらばらの状態に引き戻してしまふ。私の悲しみというものがあつたら、それはおそろく、何の事件にも動機にもかかわりなく、突発的に、理由もなく私を襲うであらう。……

「……又しても私は、こういう凡^{すべ}てを、目前の新しい友に説明できずに終つた。^④鶴川はとうとう笑い出した。

「へえ、変つてるんだなあ」
彼のシャツの白い腹が波立つた。そこに動いている木洩れ陽が私を幸福にした。こいつのシャツの皺^{しわ}みたいいに、私の人生は皺が寄っている。しかしこのシャツは何と白く光っているだろう、皺が寄っているままに。……もしかすると私も？

問1 傍線部①～⑤のカタカナ部分に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。
 解答番号は 21 ～ 25。

① カイエン

21

- ① エンカツに事を運ぶ。
 ② 雨天ジュンエン。
 ③ 学校のエンカクを調べる。
 ④ エンカイの幹事を務める。
 ⑤ 美しいデンエン風景。

② セキトウ

22

- ① タントウ直入に尋ねる。
 ② トウキ五輪の開催予定地。
 ③ 彼は用意シユウトウだ。
 ④ 丘の上に建つテレビトウ。
 ⑤ 選挙前のガイトウ演説。

③ ジュンタク

23

- ① 劇団の地方ジュンギョウ。
 ② リジュンを追求する会社。
 ③ 彼の言うことにはムジュンがある。
 ④ 市内をジュンカンするバス。
 ⑤ ジュンボクな青年。

④ エンコ

24

- ① 勝利者をカンコして迎える。
 ② 彼は戦災コジだそうだ。
 ③ コガイに吹き荒れる風。
 ④ コジ来歴を調べる。
 ⑤ 身をコにして働く。

⑤ ヒョウホン

25

- ① ヒョウシギの音が聞こえる。
 ② 出金デンピョウを切る。
 ③ XザヒョウとYザヒョウ。
 ④ 彼はヒョウキン者だ。
 ⑤ 周囲のフヒョウを買う行動。

問2 傍線部(ア)(イ)(カ)の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は 26 ～ 28。

(ア) かまびすしく

26

- ① やかましく
② うつとうしく
③ こうるさく
④ 気詰まりで
⑤ 嫌な感じで

(イ) 水際立った

27

- ① 語気が鋭い
② 華々しい
③ 耳慣れない
④ 周囲と違った
⑤ 鮮やかな

(カ) 逢着して

28

- ① 巡りあって
② たどり着いて
③ 出くわして
④ 執着して
⑤ 手を焼いて

問3 傍線部(ウ)「私の口は言葉を失った」とあるが、(ウ)を含むこの場面の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 29。

- ① 思いがけない場所で鶴川に会った驚きにより返答できずにいた私の様子から、鶴川は柵の内側で寝転んでいた自分が責められているように感じたらしかった。
② 鶴川の話し方に恐怖心を抱いていたため何とも返事ができなかった私の様子から、鶴川は掃除を怠っていた自分がとがめられているように感じたらしかった。
③ 都会的な鶴川の雰囲気やふるまいに圧倒されてものが言えなかった私の様子から、鶴川は自分が掃除をしない理由について弁解する必要を感じたらしくかった。
④ 鶴川の待っていたのが自分でないといわかり、場違いを恥じ黙っていた私の様子から、鶴川は話をしかけることで場の空気を和らげる必要を感じたらしくかった。
⑤ 鶴川の言葉から自分が軽視されているといわかり、気後れして口を閉ざした私の様子から、鶴川は親しみを感じさせようと自ら怠け癖を話し始めたらしかった。

問4 傍線部(エ)「この少年はおそらく私のように金閣を愛さないだろう」とあるが、「私」はなぜそのように「わかった」のか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 30。

- ① 鶴川が私のように醜くなく、むしろ育ちの良さが現れた率直で快活な様子であったため、私ほど極端に金閣に引かれる理由がないと直感したから。
- ② 鶴川が私のように醜くなく、むしろ日焼けした健康的な容貌であったため、私と違い人から愛され、金閣の持つ美を必要としないと直感したから。
- ③ 鶴川が私のように醜くなく、むしろ美しいとも言える外貌を備えていたため、私ほど強く金閣の持つ美しさにこだわる必要がないと直感したから。
- ④ 鶴川が私ほど醜くなく、また金閣の美を植え付けた父のような存在がないため、私のようにゆがんだ形で金閣に執着しないですむと直感したから。
- ⑤ 鶴川が私ほど醜くなく、また木漏れ陽の下の彼の姿は青白く、金閣に対する私の情熱に匹敵するほどの気持ちを持っているは見えなかったから。

問5 傍線部(オ)「何も悲しいことあらへん」とあるが、「私」のこの発言の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 鶴川の感想が「私」の真意を顧慮しないものであったことは不快ではなかったが、もの足りない感じがあったため、相手に本当のところを理解させようとして行った発言。
- ② 鶴川の感想が、「私」の真の姿に達しない表面的なものであったことは、付き合いが浅いためやむを得なかったが、今後はもっと近づくべきだと考え、とっさに行った発言。
- ③ 鶴川の感想が、独りよがりで「私」の本当の気持ちに触れないことは気にならず、気楽ですらあったが、相手の思い込みを揺さぶってみたい気持ちに駆られて行った発言。
- ④ 鶴川の感想が、子供じみており「私」の本心を理解しないものだったことは問題にならず、安心感すら呼び覚まされたが、ふと相手を煙に巻きたい気持ちになり行った発言。
- ⑤ 鶴川の感想が、「私」の内面に配慮した優しいものであったことに安堵し、さらに相手の好意を期待できると判断して、秘めていた本当の気持ちをさらけだしてみせた発言。

問6 空欄《A》に当てはまる最も適当な語句を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 32。

- ① 功利的 ② 表層的 ③ 意図的 ④ 一般的 ⑤ 本質的

問7 傍線部キ「鶴川はどうとう笑い出した」とあるが、このときの「鶴川」の心情説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 33。

- ① 「私」が無愛想に「わからない」と突き放すので、あきれ果ててしまい、「私」に「推理」を働かせたことを少し後悔している。
② 「私」が予想に反し要領を得ない返答を続けるので、あっけに取られ、自分の理解を超えた「私」にどこか面白みを見出した。
③ 「私」が腑に落ちない応答や態度を続けるので、これ以上踏み込むまいと心に決め、それを笑いに紛らして表明しようとした。
④ 「私」が自分のことを十分に理解できていない様子なので気の毒になり、せめてもの助けとして、自分の印象を笑って告げた。
⑤ 「私」がわかりにくい理屈を真剣に語り、そのことの無意味さに気付いていない様子なので滑稽になり、つい笑ってしまった。

問8 この文章の内容や表現に関する説明として**適当でない**ものを、次の①～⑥から**二つ**選べ。解答番号は 34・35。

- ① 対人関係において「私」が無意識に洩らす笑いは、「私」の意に反して親しみを人に感じさせる場合がある。
② 「私」は自分の身におこった事件と引き起こされる感情を、自然につなぐことができず、それを乗り越えようと苦慮している。
③ 「私」は鶴川とのやりとりを通して、自分には偏ったところがあるが、それはそれでいいのかもしれないと思いついている。
④ 語り手「私」は基本的に物語の場面に即して語るが、一部自分の経験や認識について、場面を離れ一般化して説明している。
⑤ 語り手「私」は、繊細で自他の相違点を問題化しがちな現代人の一典型としてここに登場し、読者に様々な問題を提起している。
⑥ 「私」は自分が人にどのような印象を与えるか、結局のところわからないでいる。